



でんえい会誌 第27号

名古屋工業大学電気系同窓会誌

<http://www.denei.jp/>



＜名古屋工業大学長退任ご挨拶＞

国立大学法人名古屋工業大学学長 鶴飼 裕之

本年3月に二期6年の学長任期を満了し、退任いたします。電気系教員として、そして学長として在任中において、電影会会員の皆様から頂いたご厚情、ご支援に改めてお礼申し上げますとともに、退任にあたり一言ご挨拶を申し上げます。

私こと、1979年に本学大学院工学研究科修士課程計測工学専攻を修了後、1980年7月に電気工学科助手として奉職して以来39年の長きにわたり名工大でお世話になってまいりました。1973年計測工学科に入学し、爾来此处御器所が丘の地にて、学生として、教員として、また副学長・学長として、名工大の半世紀近くにおよぶ変遷とともに生きてまいりました。電影会に関係する先生方、同窓生の皆様、学生との思い出は語りつくすことができないほど数多くありますが、ここでは学長として過ごした6年間を振り返りながら、これからの名工大のめざす道について述べたいと思います。

私が学長に就任した2014年当時は、前年度のミッション再定義を受けて国立大学改革プランが出され、第三期中期目標計画に向けて、大きく改革に舵を切るための加速期間として位置づけられていました。そこで、就任後、早急に改革案を取りまとめ、「ものづくり」「ひとづくり」「未来づくり」を理念として、世界屈指の産業集積地域である「中京地域産業界との融合」をさらに進め、わが国の科学技術立国としての地位を盤石のものとしていくことをビジョンとして掲げました。具体的な実行プランとしては、学部と大学院との一体的な再編、6年一貫教育課程の新設、国際的共同研究のための研究特区として位置付けたフロンティア研究院の設置、産学による教育研究連携の拡充を目的とした産学官金連携機構の設置、教員給与への年俸制の導入、若手教員・女性教員枠の拡大、女子学生・留学生の増大などです。教

職員一丸となって改革に取り組んだ結果、徐々にではありますが、その成果は実を結ぶようになってまいりました。名工大の伝統と実績を守るため、名古屋工業会を中心とした同窓生の皆様とも積極的に交流して支援の輪を広げることもできました。学生の活躍も目立つようになってきました。教職員をはじめ全ての関係者の皆様には、感謝の気持ちでいっぱいです。

～名工大のめざす道～

今、世界はグローバル化、デジタル化、ソーシャル化による一大転換期を迎えています。このような時こそ、名工大のめざす道はつぎの三つの将来構想にあると考えます。社会がどのように変化しても多様な視点と柔軟な発想力を備えて新たな価値を創造でき、科学技術によって未来社会をリードする人材を養成していくことが「工学系教育のフロントランナー」として名工大のあるべき姿です。ひとり一人の教員のポテンシャルの高さをより高めながら、組織として国内外の大学・研究機関、産業界、行政、金融界とのネットワークを介して「人」「知」「技術」をつなぎ、学術・技術で新しい価値を創造して世界に発信する拠点こそが名工大ならではの研究体制

「工学のイノベーションハブ」です。そして、多様な人々が共生し、互いに能力を高め合うことによって自律的な個の集積から総体を超える組織を築いて新たな価値を創造する、すなわち「創発」する大学へと導いていく、それが「ダイバーシティ・インクルージョンキャンパス」です。

時代の一大転換期を「天の時」すなわち好機とし、中部経済圏に立地する「地の利」を活かし、大学に集う「人の和」を最大化することによって、名工大は工学系大学として独自の進化をめざしてまいります。電影会会員の皆様には、より一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。退任の挨拶とさせていただきます。皆様、本当にありがとうございます。

＜電影会会長就任あいさつ＞

電影会会長 石橋 豊 (J56)

昨年5月の総会で川村前会長の後任として電影会会長に就任した石橋豊です。情報工学科卒業生として初めての会長となります。情報工学専攻を修了してから、企業で10年間勤務した後、名工大電気情報工学科に助教授として着任し、現在に至っています。電影会が開催する事業には多数の方々にご参加いただき、開催して本当に良かったと感じていただけるようにしたいと考えていますので、よろしく願いいたします。これは参加される方々だけでなく、企画する側にとっても大事であると思っています。

名工大に着任以来、活力ある大学として生き残りをかけて、大きな改革が何回か行われるのを目の当たりにしてきました。そのような中、常に卒業生の皆様方の存在を非常に心強く感じております。就職担当になったときもそうでしたが、電影会の大きな重要な事業である「卒業生と学生との懇談会」も盛大に開催されるようになり、多くの卒業生と深く関わり続けています。この事業では、就職活動を控えた在校生達が企業の卒業生からアドバイスを得られる機会を持つためのものです。非常に多くのご支援をいただいていることに深く感謝しています。

電影会は名古屋工業会における単科会の一つですが、名古屋工業会が大学の敷地内に移動しました。大学の卒業室連携室と同じ建屋（交友会館）です。そのような立地からも、今後は大学との連携を益々強化していくことになると思います。電影会としても、そのような連携を密にしていくことが必要となりつつあります。上記の「卒業生と学生との懇談会」は、名古屋工業会の中でも優れた取り組みの一つと考えられています。また、大学が開催するホームカミングデーも同様です。名古屋工業会の名古屋支部はこのホームカミングデーに開催する講演会などの事業を企画し始めました。そこでは、若い卒業生が同窓会活動にどう参加してもらうかについても検討しています。電影会にとっても同様の問題があると思っています。

このような状況において、学生の電影会の認知度を高めて自分の居場所の一つという意識を持っても

らうことが重要だと思っています。電影会が開催する卒業祝賀会はその一例ですし、上記の「卒業生と学生との懇談会」も同様ですが、今年は新型コロナウイルスの影響のため、これらの事業の開催を中止しました。また、優秀な成績を収めた4年生に授与する電影会賞は卒業祝賀会で授与式を行っていましたが、指導教員から手渡してもらうことになりました。特に最初の二つの事業の中止は影響が大きく、在校生に対する事業が大幅に縮小されてしまうという問題があります。今回は突然の中止となりましたが、今後、そのような影響を抑えるような仕組みを考えておくことが重要になると思います。

そのような取り組みの例は、学生向け講演会や総会における講演会の開催であると思いますので、自己研鑽の場として魅力ある話が聞けるようにしていくことが大切です。

また、教員に対する事業としては、大学内で開催する研究会などに対して支援する大学行事補助があります。しかし、これを活用している教員はまだ少ないのが現状です。今後、より多くの教員が利用できるようにすることが重要であると考えます。

名古屋工業会において、同窓会を運営するのに、若手の教員に負っているところが大きく、大変な思っているという声をよく聞きます。卒業生が行った方がよいと考えられるところは卒業生にまかせるなど、負担を軽減したいと思います。最初に述べましたように、企画して良かったと思えるようにすることが重要です。名工大出身の若手の教員が減りつつある現状を考えますと、今後何らかの対策が必要になってくると思われます。

以上が約一年間を経て感じたことです。重要なことは、電影会と名工大の連携を強め、お互いに発展していくことです。名工大の電気系学科卒業生かつ教員として、少しでも貢献したいと考えています。皆様のご意見を反映しながら、電影会の活動が益々活発になるように運営に取り組んでいきたいと思っていますので、ご協力を何卒よろしく願いいたします。

＜新研究センターのご紹介＞

電気・機械工学教育類 平田 晃正

(先端医用物理・情報工学研究センター長)

2019年4月に始動した「先端医用物理・情報工学研究センター」は、電気・機械工学専攻、情報工学専攻、物理工学専攻の先生方計13名から構成されています。

国内外の先端研究拠点と連携ヒトに関する新規学術分野を確立し、同時に多面的かつ俯瞰的な視座を備えた人材を育成することを目的としています。また、それに基づく中部地域における産業への貢献、社会実装、国際標準化活動など多岐の出口を見据えた活動を展開していきたいと考えています。

ヒトを対象とした研究では、根幹となる実験が倫理的に実施できない、データが取得しにくい、あるいは臨床現場では症例数が少ないなどの制限があり、その場合には高度な計算科学によるアプローチが有用な手段となります。いわゆる「データ科学」が脚光を浴びていることはご承知のことと思いますが、実験、理論、計算科学などの既存の科学的手法が消えるわけでもなくなるわけもなく、むしろこれらを有機的に連携して実問題を解決していくことの重要性が高まっています。

一方、ヒトの生理現象などの測定では、必ずしもモデル化のために実施された実験ではなく、より詳細な測定が実施できていれば、さらなる高度計算モデルにつながります。高品質な実測と計算など複合的データを統合的に処理することができれば、医療、製品設計、公衆衛生などが抱える諸問題を解決できる可能性が高くなるはずで

上記の個々の要素研究をより推進するための3つの分野、実測を中心とした生体情報センシング部門、計算科学部門、データ科学部門から構成し、それを成し得るための融合研究、技術講演会など皆様のお知恵を拝借しながら活動を行っていきます。

具体的な活動として、2019年5月にはキックオフシンポジウムを開催しました。本谷秀堅副センター長からは、シミュレーションの機械学習の融合によるパーソナル医療について、竹内一郎部門長からはシミュレーションの最適化問題についてご講演いた

できました。2019年度は、3件の海外からの研究者の講演を含む計9件の講演会を開催しました。

マスメディアなどを通じて広く普及啓発活動も行っており、センターの設置についても複数の新聞で取り上げていただきました。また、竹内部門長との融合研究によるプレスリリース（気象データを使って熱中症搬送者数を予測、7.19）は、計44件のTV報道、新聞掲載をいただきました。2020年度からは、センターに所属する先生方との交流をさらに密にし、新規分野の確立を図っていきたく考えています。

これまでの活動で得られた知見や反省点を踏まえ、国際的な研究拠点形成を目指した活動を推進していきたいと考えています。ご支援のほどよろしく願います。



新研究センター主催シンポジウムの様子

＜数理情報教育の全学への展開＞

情報工学教育類 片山 喜章

2016年に文部科学省が「大学の数理・データサイエンス教育強化方策について」をとりまとめるとともに、6大学を「数理及びデータサイエンスに係る教育強化」の拠点校として選定、数理・データサイエンス教育の全国の大学への普及・展開に向け、全国

的なモデルとなる標準カリキュラムや教材等の作成に向けた活動が開始され、以降も協力校が追加選定されています。この動きは、『デジタル時代の基礎知識(いわゆる「読み・書き・そろばん」)である「数理・データサイエンス・AI」に必要な力をすべての国民が育み、あらゆる分野で人材が活躍する環境を目指した教育目標(AI戦略2019より要約)』が設定されたことから、全国の大学で益々活発化するものと考えられます。

全国あるいは全世界規模の「ものづくり企業」が集まる中京圏に位置する本学は、「数理・データサイエンス・AI」の基礎的知識を身につけた人材を産業界に輩出することは重要なミッションのひとつです。理工系単科大学である本学は、「数理・データサイエンス・AI」を身につけるための「数理情報教育」に必要な数学的基本知識をすべての学生が学習済みです。さらに、数理情報を専門とする教員も在籍しており、数理情報教育の全学展開が比較的实现しやすい環境にあります。とはいえ、実現するためには教育内容検討、カリキュラム編成、担当教員割り当てなど、検討すべき項目が山積でした。そこで2018年度から本学の「教育改善推進経費」を利用した数理情報教育の全学展開に向けたプロジェクトが開始され、情報工学教育類の教員を中心としたワーキンググループ(WG)が組織されました。

WGでは、まず2018年度は拠点校や数理情報教育が比較的に進んでいる他大学へ情報収集および担当者を招いてのFD講演会などを通じ、本学における数理情報教育のあり方が検討されました。2019年度は、前年度の成果に基づき、数理情報教育の2020年度からの全学展開を目標に、カリキュラムを含めて実施体制が検討されました。結果、おおよそ以下のようになり決まりました(変更される可能性があります)。

- ・学部全学科共通必修科目および大学院全専攻で数理情報科目を新規開講し、全学生が理工系学生として身につけるべき数理情報の基礎知識を習得する。
- ・数理情報関連科目の履修モデルとして学習レベル別に3つのコースを用意する。各コースは上記科目に加え、各学科・専攻で用意された数理情報関連科目が含まれ、基礎的な内容から応用的内容まで学生

自身が選択して履修できる。

- ・学生には履修証明を発行する。

これらの中で最も重要な問題のひとつが、全学科共通の「数理情報概論」の内容と講義担当の決定でした。内容については、数理情報専門の教員らが頭を寄せ、WGの調査結果を参考に基づいて統計学やデータ解析、機械学習の基礎などを中心とした本学卒業生全員が習得すべき内容を厳選しました。

一方、講義担当をどうするかは難しい問題でした。この授業は全学科必修でクラス数が多く、必然的に講義担当の延べ数も多くなります。つまり、数理情報の専門でない教員も担当せざるを得ない場合も出てきます。しかし授業の質は落とせません。そこで、たとえ専門でない教員でも同じ質の授業ができるよう「授業資料の共通化」と「授業担当教員向け授業の手引き作成」を行うこととしました。授業資料は数理情報専門の教員が作成し、それをういた授業を他の教員が受講するとともにフィードバックをかけ、それらを基に授業の手引きを作成する予定です。担当者に大きな負担をかける作業ですが、担当教員の理解と協力により実現できる予定です。さらに、このように作成された授業資料と手引きは、本学以外の大学への提供も念頭に入れています。

現時点で、まずは基本的な履修プログラム設計はできました。今後、e-learningによる教員負担軽減と学習効果向上の実現や、教員と学生そして産業界からのフィードバックによる授業内容の継続的改善が可能な体制づくりを目指しています。さらにこれらの成果を工学系学部を持たない大学を含めて他大学と共有し、数理情報の基本的素養を身につけた卒業生をより多く産業界へ送り込むことを目標にしています。まもなく文部科学省が履修プログラムの認定制度を用意するという話もあります。我々はそれらに柔軟に対応することも要求されています。

本学における数理情報関連科目を履修した最初の卒業生は2024年3月卒の予定です。どうか今後ともご支援のほど、よろしく願いいたします。

< 2019年度の就職状況について >
電気電子工学教育類 就職担当 安井 晋示(E62)

電気電子工学教育類の就職担当教員として、2020年3月卒業予定の学生を対象に、進路指導を務めさせていただきました。対象学生は、第一部電気電子工学科109名、第二部電気情報工学科3名(電気電子分野)、電気電子分野に関係した研究室に所属する大学院博士前期課程学生129名(電気・機械工学専攻113名、物理工学専攻9名、情報工学専攻7名)、博士後期課程0名の、総計241名でした。例年同様、学部生は進学希望者が多く、3月末時点で進学者89名、就職18名です。一方、博士前期課程の大学院生は民間企業への就職希望が殆どで、就職121名、進学者3名でした。

求人企業・業種はここ数年のトレンドに大きな変化は無く、昨今の売り手市場が続く中、電機、自動車、電力など電気電子に関連する企業のみならず、材料・素材・インフラなど幅広いメーカー約570社から求人を頂戴しました。年末から2月の約3ヶ月間を中心に、約200社の企業面談をさせていただきましたが、企業業種としては機械・化学・材料や技術人材派遣が圧倒的に多く、医療・製薬会社などからも強いリクエストがありました。それらのメーカーは、生産設備・管理業務に人材が必要であるという理由が殆どであり、電気電子工学分野を学んだ学生への強い期待を感じました。また、近年、特に電気電子分野からの採用が難しくなっている状況から、東海地区に限らず、関東、関西からも多数の企業が本学科の学生の採用に積極的に活動されております。

一方、名古屋市や愛知県を始め、近隣自治体からの公務員の求人も相当数ありました。その業務は警察や港湾業務など多岐に渡り、出向や転勤が無いなどの売りも併せて、魅力ある職場とのメッセージを多く頂戴しました。マスコミなどの報道では学生の地方公務員への人気は高いとのことですが、本学科では例年希望者は少なく、今年度の公務員への就職は1名となっています。

選考スケジュールやその過程に関しましては、経団連の採用選考指針に基づき、会社説明会は3月1日解禁、選考は6月1日から開始で、これまでと同様です。しかし、ご存知の通り経団連の指針は殆ど有形無実で、

実際には「3月にエントリーシート提出、その後順次選考」となっています。この早期化の流れは年々早まってきています。特に、企業によってはOB面談という形で、2月からの実質的な事前選考が行われているケースもみられます。さらに、国や大学が学生へのインターンシップを推奨していますが、インターンシップを採用活動に連動する企業も多く、3月前の“インターンシップ枠”なる選考トラックも散見されます。昨年度の経団連からの就職協定の廃止に向けた発表により、今後はさらに活動時期が前倒しになることが予想されます。特に、夏期・冬期のインターンシップが就職活動の中で大きな重みを増していくことが予想されます。このように長期化する就職活動の中で、学業や研究活動の時間が割かれることは、大学院生の教育研究活動においても、益々大きな課題になりつつあります。

選考方法については、ほぼすべての企業がジョブマッチング制度に移行し、本来の“学校推薦”は選考後の確約証程度の位置付けになっています。推薦希望の企業に学生を紹介した後は、選考が決まるまでに他の企業の推薦を得られないことから、かなり企業寄りの選考となっていることは否めません。

併せて、多くの学生が特定の会社に偏って入社する、という傾向は本年度も変わりませんでした。中部地区の製造業の好況感や、数年前から始まったモビリティの電動化・知能化の波を受け、関連業種が多くの電気電子技術者を必要としていることは間違いありません。また、OB訪問を介した採用活動の影響も大きく、採用実績の多い20社に約半数の62名が就職しており、多い企業では1社8名の採用もみられます。次年度以降は1社辺りの採用人数に上限を設けるように、企業の方には働きかけていく予定をしています。

なお、この原稿を執筆している現在、国内外ではコロナウイルスの感染抑制に向けて、様々な経済活動に多大な影響を及ぼしています。株価も大きく下落し、今後の企業実績にもマイナス要因が見込まれて、世界経済に不安が広がっています。就職活動は、このような社会情勢に大きく影響を受けてしまいます。毎年開

催している大学主催の企業セミナーや会社説明会も全て中止となり、就活生にとっては大きなマイナス要因となっています。様々なご支援を頂戴している同窓の方々をはじめ、関係者皆様におかれましては、このような状況下におきましても、本学科の就職活動に対して、なにとぞご支援をいただきますようお願いいたします。また、大学・学生にとって、企業にとって、より良い進路指導になりますよう、引き続きご理解・ご協力の程よろしくお願い申し上げます。

情報工学教育類 就職担当 片山 喜章

2019年度の情報工学科・情報工学専攻を中心とした情報系の進路指導対象学生は、一部学部生153名(就職希望46名)、二部学部生1名(就職希望1名)、大学院学生(前後期)124名(就職希望114名)でした。本学情報系学生に対する求人数はここ数年と大きく変わらず、全385社から求人票をご送付いただき、うち今年度からの新規を含め322社から推薦枠をいただきました。この数は情報系学生の就職希望者数よりも多く、学生は様々な選択肢から就職希望先を選ぶことが可能で、大変恵まれた状況でした。私自身も164社との面談と情報交換を通して大変勉強させていただきました。現在、内閣府の第5期科学技術基本計画において、我が国が目指すべき未来社会の姿としてSociety 5.0が提唱され、AI、IoT、データサイエンスをキーワードにIT系人材の育成が急務とされています。さらに働き方改革に係る業務改善の要請なども絡み、多種多様な業種が情報系学生を必要としその働きを期待されています。そのような状況を、本学卒業生の方々を含むご来訪いただいた方々との話を通じて肌身で感じることができました。そして、本学卒業生の皆様から様々な形でご支援をいただいていること、さらに今まで長年に亘って築いてこられた実績とそれに基づく信頼が本学の持つ強さのひとつであることを実感しました。

情報系学生に対する進路指導は、1月の第1回進路指導説明会を皮切りに2回の学科による説明会、3月の本学主催企業研究セミナーや電影会主催による卒

業生と学生の懇談会などを通じて行われました。他にも卒業生の方々によるOB訪問や会社説明会なども多く企画され、就職担当としてこれらへの積極的な参加を呼びかけ、できるだけ多くの業種・企業の情報を集めることを学生に勧めました。経団連会員企業による申し合わせ(3月会社説明会解禁)はあるものの、実際には早ければ2018年12月ごろに内定をいただく学生もおり、多くの企業で求人活動の早期化が進んでいるようです。それと同時にジョブマッチング型をはじめとする選考プロセスの多様化もあり、学生のみならず就職担当者も情報の把握や管理に大変気を遣いました。本学からの大学推薦は4月1日以降発行していますが、企業様側からそれ以前の発行を求められ、就職担当として企業の担当者様と学生への説明が必要になるケースもいくつかありました。そうした中、お陰様で年内には進路決定率ほぼ100%を達成することができました。

学生らの進路選択に関しては、学部生は言うに及ばず、大学院生であっても、進路(就職希望企業)を選択する際の視野が狭いように感じました。言い方を変えれば「やりたい仕事」で選ばず「会社の名前」で選ぶ学生が結構な割合で存在しました。2008年のリーマンショック以降、学生のみならず保護者の方も安定を志向されるがゆえにこのような選択になるのは仕方ないのかもしれませんが、しかし、今後本学卒業生が己の能力を發揮し活躍できる環境を実現するため、そして何より学生自身のために、情報系学生生活躍の場の多様性と魅力を学生に伝え視野を広げさせることが重要であり、それは我々の課題のひとつだと考えています。

今年度の就職担当を通して得た知見は、次年度以降の就職担当に引き継ぐと同時に、学生諸君のキャリア選択の一助となるべく、授業など学生との交流の中で伝えていきたいと思っております。

最後になりますが、ご支援をいただきました本学卒業生の方々をはじめとするお世話になった皆様に厚く御礼を申し上げます。今後とも変わらぬご支援をよろしくお願い申し上げます。

2019 年度事業報告

1. 会合

- 電影会総会 2019.5.17 NITech Hall
- 第1回役員会 2019.10.28 名工大6号館
- 学内幹事会 2019.12.25 名工大大学会館
- 第2回役員会 2020.3.11 名工大大学会館
- 幹事会 新型コロナウイルスの影響により中止

2. 事業

- 学生向け講演会
(1) 2020.2.3
橋本英樹氏(ごきそ技術士会)
「先人の取り組みに注目しながら技術者倫理について考える」

鈴木克彦氏(J57)(ごきそ技術士会)
「ロボットの応用と技術者倫理」

- 新入生向け電影会案内 2019.4.3
- 卒業祝賀会
新型コロナウイルスの影響により中止
- 電影会会誌発行(第26号)2019.4
- 大学行事補助 6件
- 電影会賞贈呈 2020.3.26
- 卒業生と学生の懇談会
新型コロナウイルスの影響により中止

2019 年度決算

科目	収入	科目	支出
繰越金	4,223,136	通信費	731,695
入会金	1,290,000	印刷費	770,449
工業会より	0	事務費	10,061
利息	11	会合費	161,896
雑収入	144,000	学生行事補助	375,830
寄付金	1,127,411	大学行事補助	113,000
		総会補助	92,098
		支部活動費	150,000
		インターネット経費	9,884
		雑費	864
		人件費	300,000
		繰越金	4,068,781
合計	6,784,558	合計	6,784,558

2020 年度事業計画 (案)

1. 会合

- 電影会総会 ○役員会
- 幹事会 ○学内幹事会

2. 事業

- 新入生向け電影会案内 ○学生向け講演会
- 電影会会誌発行 ○卒業祝賀会 ○電影会賞
- 大学行事への補助 ○卒業生と学生との懇談会
- 名古屋工業会との連携

2020 年度予算 (案)

科目	収入	科目	支出
繰越金	4,068,781	通信費	750,000
入会金	1,290,000	印刷費	900,000
工業会より	70,000	事務費	10,000
利息	100	会合費	350,000
雑収入	656,000	学生行事補助	950,000
寄付金	1,100,000	大学行事補助	200,000
		総会補助	120,000
		支部活動費	150,000
		インターネット経費	10,000
		雑費	10,000
		人件費	320,000
		繰越金	3,414,881
合計	7,184,881	合計	7,184,881

2020 年度役員(案)

- 名誉会長 井上丈太郎(E13)
犬飼英吉(E28)
神谷昌宏(E36)
中村光一(E41)
北村正(Es48)
- 会長 石橋豊(J56)
- 副会長 川越英二(E47) 原田幹寿(E53)
安藤幹人(E57) 岩崎誠(E61)
- 理事 岩塚真之(E56) 山中清(J52)
松尾啓志(J58) 三宅正人(E60)
川村信之(E53)
- 監事 市原正樹(E48)
- 庶務理事 廣瀬光利(E50) 加藤正史(EJh10)
- 会計理事 酒井公孝(J54) 立岩佑一郎(Ih14)
- 編集理事 加藤慎也(EEh20) 武藤敦子(Ih10)
- 庶務補佐 後藤富朗(EJh9)
- 会計補佐 岸直希(EJh12)

学位取得者一覧

電気・機械工学専攻

2019年9月 課程修了者（授与日:2019年9月4日）

氏名	論文題目	主査教員名
SHIN SUNG YONG	Study on High Performance Control of Switched Reluctance Motor for Industrial Servo Drive Application	小坂 卓

2020年3月 課程修了者（授与日:2020年3月31日）

ANISSA ADIWENA PUTRI	STUDY ON BISMUTH OXYIODIDE FOR PHOTOVOLTAIC CELL APPLICATION	曾我 哲夫
MANSOUREH KEIKHAEI	Electrochemical Deposition of Copper-based Oxide Thin Films for Optoelectronics Applications	市村 正也

情報工学専攻

2020年3月 課程修了者（授与日:2020年3月31日）

堀田 竜士	研究者と市民の共創支援に関する研究	伊藤 孝行
奥原 俊	エージェントの説明可能な交渉・協調モデルとその応用に関する研究	伊藤 孝行

入試・就職状況

昨年度の入試状況と就職状況は以下の通りです。

2019年度入学者選抜状況

電気・機械工学科（一部）

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	20	110	70
志願者数	81	304	569
受験者数	81	295	287
合格者数	22	110	94

情報工学科（一部）

	推薦	前期日程	後期日程
募集人員	15	85	45
志願者数	62	323	360
受験者数	62	301	200
合格者数	15	88	56

第一部私費外国人留学生特別選抜

	電気・機械工学科	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	36	41
受験者数	33	36
合格者数	8	6

編入学・転入学（一部:3年）

（ ）は内数で転入学数を表す

	電気・機械工学科 （電気電子分野）	情報工学科
募集人員	若干名	若干名
志願者数	28(3)	11(3)
受験者数	26(2)	9(1)
合格者数	12	3

電気情報工学科（二部:一般選抜前期日程）

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
5	39	34	6

大学院・電気・機械工学専攻（博士前期課程）

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	54	84	若干名
志願者数	60	203	21
受験者数	59	200	20
合格者数	56	177	11

大学院・情報工学専攻（博士前期課程）

	推薦	一般選抜	私費留学生
募集人員	35	75	若干名
志願者数	38	120	21
受験者数	38	118	21
合格者数	34	98	11

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
9	3	3	3

大学院・情報工学専攻(博士後期1次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
7	4	4	4

大学院・国際連携情報学専攻(博士後期)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
2	2	2	1

大学院・電気・機械工学専攻(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	4	4	4

大学院・情報工学専攻(博士後期2次募集)

募集人員	志願者数	受験者数	合格者数
若干名	2	2	2

2019年度卒業生就職状況

	電気電子工学科			情報工学科		
	大学院 ※	一部	二部	大学院 ※	一部	二部
卒業生	129	109	3	124	153	1
進学者	3	89	0	6	100	0
研究生	0	0	0	0	0	0
一般企業	121	18	3	112	43	1
公務員	0	1	0	0	3	0
教員	0	0	0	0	0	0
帰国(留学生)	2	0	0	1	1	0
休学他	1	1	0	3	6	0
未定者	2	1	0	2	0	0

※電気・機械工学専攻(電気電子分野)・創成シミュレーション工学専攻を含む

電影会賞

この賞は、電影会準会員の向学心向上と優秀な学生の育成を目的とし、卓越した成績で卒業し、今後の科学技術の発展に貢献すると思われる有望な学生を表彰することを目的としています。2019年度の受賞者は以下の方です。

氏名, 所属
宮崎 樹, 第一部電気・機械工学科
下山 勝大, 第一部電気・機械工学科
井口 太輔, 第一部電気・機械工学科
江口 拓斗, 第一部電気・機械工学科
伴 駿矢, 第一部電気・機械工学科
林 賢志, 第一部電気・機械工学科
大濱 慎志, 第一部電気・機械工学科

氏名, 所属
厚地 俊哉, 第一部情報工学科
阪本 真吾, 第一部情報工学科
山下 淳, 第一部情報工学科
朝日 陽向, 第一部情報工学科
杉山 諒太, 第一部情報工学科
浅井 優太, 第一部情報工学科
神谷 俊樹, 第一部情報工学科

学生の表彰

紙面の都合上、受賞内容の詳細は省略させていただきます。

賞の名称, 氏名, 所属, 指導教員氏名
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (2019.6), Qin Qian, 情報工学専攻, 石橋豊教授
WSCE 2019 国際会議 Best Presentation Award (2019.12), Wen Limin, 情報工学専攻, 石橋豊教授
IEEE 名古屋支部学生奨励賞 (2020.1), Wen Limin, 情報工学専攻, 石橋豊教授
副学長表彰(学術活動部門) (2020.2), Qin Qian, 情報工学専攻, 石橋豊教授
IEEE EMC Society Japan Joint Chapter Student Award (2019.6), 陳明輝, 電気・機械工学専攻, 王建青教授
電子情報通信学会環境電磁工学技術専門委員会, 第1回 EMC 対策設計コンテスト KEC 特別賞 (2019.12), 韓忠逸, 電気・機械工学科, 王建青教授
電子情報通信学会環境電磁工学技術専門委員会, EMCJ 若手優秀賞 (2020.3), 楊崢, 電気・機械工学専攻, 王建青教授
電子情報通信学会無線通信システム研究会 2019年度初年度発表者コンペティション優秀発表賞 (2020.1), 石田圭吾, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授
電子情報通信学会無線通信システム研究会 2019年度初年度発表者コンペティション優秀発表賞 (2020.1) 塩満優作, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授
JC-SAT2019, Best Paper Award (2019.10), 上野皓平, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授

電子情報通信学会衛星通信研究会 2018 年度衛星通信研究賞 (2019.8), 伊藤啓太, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授
平成 30 年度電子情報通信学会東海支部学生研究奨励賞 (2019.6), 伊藤啓太, 電気・機械工学専攻, 岡本英二准教授
平成 30 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 IEEE 賞 (2019.1), 土橋俊紀, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
平成 30 年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 奨励賞 (2019.1), 泉春乃, 情報工学科, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学生研究奨励 副学長賞 (2019.2), 福田和彰, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
名古屋工業大学学生研究奨励 副学長賞 (2019.2), 中野智文, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 19 回計測自動制御学会システムインテグレーション部門講演会 優秀講演賞 (2019.3), 北河茜, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 20 回日本感性工学会大会優秀発表賞 (2019.9), 北河茜, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
IEEE GCCE 2019 Excellent Student Paper Award Silver Prize (2019.10), 泉春乃, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 17 回情報学ワークショップ(WiNF2019)奨励賞 (2019.11), 泉春乃, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 17 回情報学ワークショップ(WiNF2019)奨励賞 (2019.11), 原田誠一, 情報工学科, 加藤昇平教授
第 17 回情報学ワークショップ(WiNF2019)奨励賞 (2019.11), 伊原滉也, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
2019 年度計測自動制御学会学術奨励賞・研究奨励賞 (2020.2), 中野智文, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
IEEE Nagoya Section Excellent Student Award (2020.3), 丹羽貴敏, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
電子情報通信学会東海支部学業成績優秀賞 (2020.3), 原田誠一, 情報工学科, 加藤昇平教授
FIT2019 第 18 回情報科学技術フォーラムヤングリサーチ賞 (2019.12), 岩田滉平, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
FIT2019 第 18 回情報科学技術フォーラム FIT 論文賞 (2019.12), 加賀翔太郎, 情報工学専攻, 加藤昇平教授
第 14 回情報危機管理コンテスト 文部科学大臣賞 (2019.5), 青木和也, 稲吉弘樹, 林優香, 村上恒, 情報工学専攻, 齋藤彰一教授
Best Student Paper Award, ISAP 2019 (2019.10), 横井はるな, 電気・機械工学専攻, 榎原久二男教授
2018 年電気学会 優秀論文発表賞 (2019.8), 櫻木佑哉, 電気・機械工学専攻, 関健太准教授
電気学会東海支部長賞 (2020.3), 山田真那, 電気・機械工学科, 関健太准教授
IEEE Nagoya Section Excellent Student Award (2019.3), 二間瀬悠希, 情報工学専攻, 津邑公暁教授
xSIG 2019, Outstanding Effort Award (2019.5), 川口優樹, 情報工学専攻, 津邑公暁教授
xSIG 2019, Outstanding M1 Student Award (2019.5), 飯田凌大, 情報工学専攻, 津邑公暁教授
xSIG 2019, Best Undergraduate Student Award (2019.5), 小林龍之介, 情報工学専攻, 津邑公暁教授
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (2019.6), 二間瀬悠希, 情報工学専攻, 津邑公暁教授
PacRim 2019, Best Paper Award for Computers Track (2019.8), 井内悠太, 情報工学専攻, 津邑公暁教授
電子情報通信学会 コンピュータシステム研究会優秀若手発表賞 (2019.11), 高岡 昌弘, 情報工学専攻, 津邑公暁教授
平成 30 年度 IEICE 東海支部 学生研究奨励賞 (2019.6), 法野行哉, 情報工学専攻, 徳田恵一教授
第 23 回東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会 概要講演賞 (2019.8), 藤本崇人, 情報工学専攻, 徳田恵一教授
2019 年度日本音響学会東海支部 優秀発表賞 (2019.12), 藤本崇人, 情報工学専攻, 徳田恵一教授,
第 13 回 IEEE Signal Processing Society Japan Student Journal Paper Award (2019.12), 吉村建慶, 情報工学専攻, 徳田恵一教授
第 23 回東海地区音声関連研究室修士論文中間発表会, 総合 1 位 (2019.8), 春日井貴之, 情報工学専攻, 南角吉彦准教授
2019 年度日本音響学会東海支部 優秀発表賞 (2019.12) 春日井貴之, 情報工学専攻, 南角吉彦准教授
電子情報通信学会東海支部 学生研究奨励賞 (2019.6), 坪川哲平, 情報工学専攻, 福嶋慶繁教授
日本医用画像工学会 奨励賞 (2019.9), 牧 豊大, 情報工学専攻, 本谷秀堅教授
2019 年度消防防災科学技術賞 奨励賞 消防防災科学論文 一般の部 (2019.11), 竹中清人, 電気・機械工学専攻, 水野幸男教授
令和元年度電気・電子・情報関係学会東海支部連合大会 電気学会B賞 (2020.1), 石川由祐, 電気・機械工学専攻, 水野幸男教授
第 66 回応用物理学会春季学術講演会 英語講演奨励賞(スピントロニクス研究会) (2019.9), 島崎夢志, 物理工学専攻 (旧電気電子工学科卒), 壬生攻教授
第 33 回人工知能学会全国大会優秀賞 (2019.6), 小島世大, 情報工学専攻, 武藤敦子准教授
Tongali ビジネスプランコンテスト優秀賞 第4位 (2019.6), 野村正和, 電気・機械工学専攻, 森田良文教授
キャンパスベンチャーグランプリ中部大会特別賞, 名古屋産業人クラブ会長賞 (2020.1), 野村正和, 電気・機械工学専攻, 森田良文教授
電気学会優秀論文発表賞 (2020.1), 小木曾将人, 電気・機械工学専攻, 安井晋示教授
電気設備学会優秀論文発表賞 (2019.12), 小森駿矢, 電気・機械工学専攻, 安井晋示教授

電気設備学会優秀論文発表賞 (2019.12), 村松 里華, 電気・機械工学科, 安井晋示教授

電影会運営資金寄付者

以下の方々より寄付をいただきました。ご高配に厚く御礼申し上げます。なお、学科の略語の記載を省略し、卒業年のみ記載させて頂きましたので予めご了承ください。2020年2月末までの寄付分を掲載しております。

昭16 杉山貞夫 横井實
 昭22 坪居好夫 伊藤季彦 西川清司 村上庄之介 原口泰三
 昭23 中井二夫 分部力 牧野和正 水谷末一 高木清治
 大井一典
 昭24 井上高明
 昭25 青山春彦 安良城勝也 泉館昭則 荻野孝 梶浦孝一
 後藤正 白井光雄
 昭26 沖辻寛 加藤正昭 原行一 吉野毅 松原英二
 野々目芳道 告井夫馬
 昭28 杉岡太郎 山田速水
 昭29 都筑登 七瀧健夫
 昭30 北野祐一
 昭31 大嶋光朗 辻村尚明 宇野尚 神野茂
 昭32 植田俊男 岡野修 水谷安郎 井上寛二
 昭33 荒井英二 木村欽哉 寺社下政美 杉浦勇 寺林康治
 中谷恭朗 藤田正浩
 昭34 鈴木倭 藤井壽崇 中川脩
 昭35 梅野正義 岡田昌孝 後藤秋生 藪田耕一 中西和義
 加藤昇 金子勝蔵 水野金弥
 昭36 木下清彦 西村秀夫 黒田和助 定本建二 増田勝一
 馬路才智
 昭37 新宮道生 水谷欽彌 野田昭 半田徹 高橋宏一
 昭38 是木修一 小田切啓幸 八代弘 中谷光男
 昭39 織田満之 矢田公一 下前哲夫 岡田守弘 吉田嶽彦
 田村英也
 昭40 山本健美
 昭41 中村光一 前越久 神本勝巳 宇野啓一 武井恵一
 昭42 吉村洋典 小島一男 伊藤洋太郎 宇佐美忠男 新欽介
 中山静夫 衛藤邦彦 水野重雄 青木猛 川島征一郎
 昭43 牧野正俊 堀尾猛 太田忠久
 昭44 川瀬正毅 菅野宗二 佐藤恒夫 近藤道彦 長見晃
 田邊郁夫 木原清 柴田俊夫 渡邊興司
 昭45 稲垣和則 佐野安一 櫛部精次郎 松崎敦志 坂上眞二
 昭46 田中隆三 津田孝明
 昭47 川越英二 山内一昭 加藤元三郎 田島耕一 川橋憲
 昭48 市原正樹 三木敏裕 米谷忠俊 北村正 中島正敏
 昭49 朝倉吉隆 内多重勝 緒方善郎
 昭50 廣瀬光利 浅井良一 伊藤春彦 多田健一 眞鍋和人
 浜岡重男
 昭51 馬嶋俊作 吉村元 恩地秀男 東功
 昭52 山中清 並川理 内海和彦 山口好孝
 昭53 川村信之 明慶寧 藤原享 後藤武志
 昭54 南隆司 大江準三 片桐彰夫 杉浦伸明 吉田誠治
 鬼頭次男 原信 竹田治徳 戸田利明 村上仁志
 酒井公孝
 昭55 岩崎政彦
 昭56 岩塚真之 萩原秀和 嶋田宏 勝部敬 石橋豊
 浅羽哲朗
 昭57 安藤幹人 内匠逸 谷本弘二 山内雄教 鈴木克彦
 野口敏彦 加藤彰

昭59 酒井泰誠
 昭60 三宅正人
 昭61 伊藤英高 熊崎昭 高石一慶 塚田敏彦 高石一慶
 昭62 羽賀政雄 森田良文
 昭63 鎌田和弘 佐藤俊樹
 平元 三浦篤志 八木健 長友則生 林宏明
 平3 谷口一哉
 平4 野村尚史 青木睦
 平6 村上依江
 平7 伊藤孝行 松井俊浩
 平10 加藤正史 布目敏郎
 平11 酒向慎司
 平12 竹尾淳 岸直希
 平15 川原淳平
 平16 前田佳弘
 平18 烏山昌幸
 平20 竹内一将 田中慎一郎 都築賢二
 平21 前田浩貴 本種和弘
 平23 山本貴之
 平24 奥村岳
 平25 安井泰観

学 科 近 況

◎ 学科役職(新年度の電影会関連教職員のみ)

2020年度電気・機械工学教育類・専攻

教育類長/専攻長 水野 幸男 教授
 副教育類長/副専攻長 森田 良文 教授

2020年度情報工学教育類・専攻

教育類長/専攻長 本谷 秀堅 教授
 副教育類長/専攻長 和田山 正 教授
 竹内 一郎 教授
 佐藤 淳 教授

2020年度就職担当

電気・機械工学教育類 Niraula Madan 教授
 情報工学教育類 津邑 公暁 教授
 布目 敏郎 准教授

◎ 2019年度退職教職員

電気・機械工学教育類 伊藤 孝弘 助教
 情報工学教育類 梅津 佑太 助教

◎ 2019年度新任教職員

電気・機械工学教育類 中村 勇太 助教
 情報工学教育類 千頭 昇 准教授
 佐久間 拓人 助教
 掛井 将平 助教

総会通知(2020年度は中止)

例年の同窓会行事として、電影会総会並びに懇親会を開催しておりましたが、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮して、2020年度の電影会総会を中止とさせていただきます。代わりに、総会資料を電影会ウェブページにアップロードいたしますので、ご覧いただきご意見をいただくことで総会に代えさせていただきます。

昭和45年3月の御卒業の各位には、ご卒業満50年をお祝いいたします。例年ですと、ご卒業満50年で総会にご出席の方は懇親会にご招待させていただくとともに、記念の品をお贈りしておりましたが、2021年度の総会に振り替えて、ご招待および記念品贈呈をさせていただけたらと考えております。

ウェブサイト: <http://www.denei.jp/event/sokai2020.pdf>
パスワード: denei2020sokai

ご意見提出先: office@denei.jp または
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
名古屋工業大学 加藤 正史
受付期間: 2020年6月末日まで

関西支部からのお知らせ

当支部では毎年7月に支部総会を開催しています。今年も以下の予定で計画中です。ご予約お願い致します。

日時: 2020年7月11日(土)18時ごろから
場所: メルパルク大阪(新大阪駅から西へ徒歩約4分)

連絡先は
村上仁志(Es54) 〒590-0046 堺市堺区三条通4-7
メールの方は kansai@denei.jp

昨年の支部総会は、盛大に開催できました事、この場をお借りして御礼申し上げます。今年も幅広い年代の方々にお集まりいただき、相互交流を深めていただければ幸いです。しかしながら、新型コロナウイルスの状況次第では延期等があることもご理解いただくようお願い致します。詳細は別途連絡致します。

関西支部長 川越英二 E47

名古屋工業会総会のご案内

2020年5月23日(土)に開催を予定しておりました名古屋工業会2020年度定期総会につきましては、新型コロナウイルスの感染拡大を考慮して、郵送による書面審議に替えさせていただきます。また、同時に開催予定の会員総会、特別講演会、懇親会は中止とさせていただきます。

電影会寄付募集のお願い

現在、電影会は名工大へ入学時に皆様からお納めいただいた会費、並びに卒業された皆様からの寄付金によって運営されています。

でんえい会誌の発行やホームページによるサービスを始め、電影会の運営をスムーズに行うため、今後とも皆様からの寄付をお願いいたしたく存じます。よろしくお願い申し上げます。

尚、寄付をいただいた方は、次号にお名前を掲載させていただきます。

一口	: 2000円
郵便振込先:	00860-9-19618 電影会

名古屋工業大学基金寄付募集のお願い

現在、名古屋工業大学は皆様からの寄附を募集しております。詳しくは名古屋工業大学基金のウェブサイト(<http://www.nitech.ac.jp/kikin/>)をご覧ください。

投稿記事の募集

でんえい会誌の記事を募集いたしますので、会員の皆様からの積極的なご投稿を電影会までお願いいたします。1ページ約1600字です。

編集委員 岩崎誠(E61) 加藤慎也(EEh20)
加藤正史(EJh10) 武藤敦子(Ih10)
立岩佑一郎(Ih14)

発行 名古屋工業大学内電影会
〒466-8555 名古屋市昭和区御器所町
加藤正史 庶務理事
E-mail: office@denei.jp URL: <http://www.denei.jp/>

名簿充実にご協力をお願いします

現在、電影会は約15,000人の存命会員を擁しています。その中で電影会誌をお届けできているのは半数に過ぎず、あとの半数は消息不明となっています。わたしたちは、より多くの方々に電影会誌をお送りすることで、絆を強くし、多くの情報、質の高いサービスを名工大とともに提供して参りたいと考えています。そこで、名簿の信頼性向上と充実、消息不明数の縮減を進める必要があります。名簿上は消息不明の方も同級生との間で連絡可能であることが少なくありません。同級生の最新名簿をお持ちの方におかれては、是非、その名簿を電影会事務局に送って頂きたいようお願い申し上げます。まずは、ご一報ください。(meibo@denei.jp)